

キャラクター名  
佐藤 翔太

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ウロボロス		ワークス	研究者	カヴァー	UGNエージェント
	オプション		年齢	25	性別	男
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	28 %	
出自	姉妹	経験	実験体	邂逅	任意：綿貫由香利	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	9
精神	5	1	0	1		7	戦闘移動	14
社会	1	0	0			1	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	5		情報：学問	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
AIDA	

合計装甲： 0    合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
D：奇妙な隣人	P	N		
木場茅	P 庇護	N 悔悟		
木場東陽	P 執着	N 憎悪		
FH研究施設	P 執着	N 憤懣		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P： 4    残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
オリジン：レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果： シーン間【精神】判定の達成値+(Lv*2)								
原初の青：氷の回廊	1	1+1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 飛行状態戦闘移動、移動距離+(Lv*2)m								
コンセントレイト：ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果： C値-Lv								
虚構のナイフ	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果： 攻撃力+(Lv*3)								
原初の赤：氷の塔	5	4+1	メジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果： 攻撃力+(Lv*3)、同エンゲージ攻撃不可								
生き字引	1	1	メジャー	至近	自身	-	-	
効果： 〈情報〉判定を〈意志〉で代用、判定ダイス+Lv								
知識の泉	1	1	メジャー	-	-	-	-	
効果： 判定ダイス+(Lv+1)個								
完全演技	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 個人の人格を模倣する								
写真記憶	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 目にしたものを詳細に記憶する								
ドクタードリトル	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： 世界中の言語を使える、動物とも意思疎通可能								
イージーフェイカー：天使の外套	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 外見を上書きする								
まだらの紐	1	1	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 影に知覚能力を持たせる								
効果：								

○生まれ  
ギャンプル好きの父・東陽と、病弱な母の間に生まれる。  
母は翔太が生まれて間もなく病死した。  
東陽は女遊びが激しく、妻が死んだ3日後には既に違う女を家に連れ込んでいた程。

○名前  
佐藤翔太という名は家を出た後に、父との決別として改名した際に付けた名である。  
名前を変えられればなんでも良かった為、当時多かった苗字、名前を適当に付けた。  
元の名前は木場門仲。

○妹  
翔太は家を出た数年後、翔太が20歳の頃、町で女の子が男に襲われている所を目撃、助けようと近付いた。  
暗い夜の事だったが、はっきりわかった。  
女の子は塾帰りなのか近くの学校の制服を着た中学生、襲っている男は…もう会う事もないと思っていたはずの父だった。  
そう気付いた時には反射的に、本能が叫ぶままに、父・東陽を殴り飛ばしていた。  
父がその後どうなったのかは知らない、知りたくもない。  
その時連れて逃げた女の子から聞いた、先ほどの男は私の父ですという言葉。  
一人っ子であり、母以外に家族はいないと思って家を出た翔太は、自分が家を出たせいで、今日まで腹違いの妹である彼女を救ってあげられなかった事を知り、何度も頭を下げた。  
彼女の母親は既に父と別れ、出て行ったという。  
その時から、翔太は彼女を守ると決めた。